

埼玉住み心地の 第15回 良いまち大賞

審査委員長 講評

埼玉住み心地の良いまち大賞も、今年で15回目を迎えました。応募作品も、思いよらない視点からまちを表現したものや、自分の住むまちをたくさん努力して調べたことが伝わってくるものが数多くあり、驚きました。

このような、自分たちが慣れ親しんでいるまちをいつもと違う角度から眺めてみる経験は、まちの良さを再発見し、ふるさとに一層の愛着を持つことにもつながり、とても有意義なことだと思います。

「第15回埼玉住み心地の良いまち大賞」で埼玉県知事賞に選ばれた作品は、澤田 周さん（中学1年生）の「浦和 アトリエ村」です。また、埼玉県教育委員会教育長賞に、石井 星雅さん（中学2年生）の「ラジオ体操で健康のまち」、協議会会長賞に、村上 惺南さん（小学6年生）の「エコで地球を守る正義の浦和 ～輪でつなぐまち～」と、西澤 沙耶香さん（中学2年生）の「ポーッと歩いてなんかいられない シャッターアートで元なまち in 春日部」の2点、そして審査委員長賞には、小林 咲蘭さん（小学3年生）の「食べもののおいしい町 日高市」と、野中 陽生さん（中学3年生）の「下を向いて歩こう 川口マンホール探し」の2点が選ばれました。

埼玉県知事賞に選ばれた澤田さんの作品は、知る人ぞ知る鎌倉文士と浦和画家というテーマが斬新で、また、ご自身で描いた絵画の模写とデザインが素晴らしい作品です。

埼玉県教育委員会教育長賞に選ばれた石井さんの作品は、商店街でラジオ体操をする人々でまちの雰囲気や上手に表現しており、見ているとクスツとしてしまうようなユーモアに溢れた力作です。

澤田さんや石井さんの作品のみならず、入選した作品には共通点があります。それは、次の休日にこれらの作品をガイドブックにして、描かれた「まち」を探検してみようかと思わせるような、不思議な魅力があるという点です。

もし、皆さんも同じような衝動に駆られたら、是非その「まち」へ足を延ばしてみてください。そこには、作品に描かれた素晴らしい魅力のほか、作品では語られていない新しい発見が待っているかもしれません。

今年は、2,537点の応募があり、平成17年の第1回目から今年の第15回目までに、18,932点のご応募をいただきました。これは、埼玉が魅力に溢れ、地域に愛されていることを示しています。そして、なにより、作者が発見した「良いまち」を私たちに届けてくださる小学校、中学校の先生や親御様、協賛企業の皆様のご支援・ご協力の賜物です。

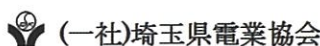
これからも、埼玉県住まいづくり協議会の活動へのご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

審査委員長

埼玉新聞社代表取締役社長 関根 正昌

後援 埼玉県 埼玉県教育委員会

協賛



埼玉住み心地の 第16回
良いまち大賞

作品募集

歴史のあるまち、自然が残るまち、安全なまち
あなたの目線で、「あなたの良いまち」を紹介してください。

応募締切 2020年9月上旬

連絡先：埼玉県住まいづくり協議会事務局 TEL 048-830-0033

良いまち大賞

検索

